

実践事例

指導内容：【領域】読むこと 中学部1段階

教材と仕組み：『BIGBOSSになろうゲーム』で、2グループに分かれ(教師が1人入り、3人ずつにする)、条件付きの説明書きを読んで行動する課題(1人2問)に取り組み、それぞれグループ内で正誤判断をする。1問正解することにお金カードがもらえ、お金カードとアイテム(時計・靴・カバンなど)を交換し、獲得したアイテムは自分のシートに貼っていく。毎回、新入社員→課長→部長と、ステージが上がり、BIGBOSSを目指して課題に取り組む。

知・技： 必要条件が加えられた説明書きを読んで行動するとき、条件が指示内容全体にかかり、繰り返しを要求していることがわかり、条件に沿って、一連の指示内容を指定回数だけ行動する

思・判・表： 様々な条件が加えられた説明書きを読んで行動するとき、条件について考え、条件の種類を判断し、説明書きの視点と順序に沿って行動したり、友だちの行動の正誤判断をしたりする

学び： ことばがもつよさに気づくとともに、国語で考えたり、伝え合ったりしようとする

評価規準

知・技： 5問行い、後半の3問で、禁止条件が加えられた説明書きを読んで説明書き通りに行動する。

思・判・表： 禁止条件、絶対条件、必要条件、分類+必要(禁止)条件、理由+必要条件が加えられた説明書きを読んで説明書き通りに行動したり、友だちの行動に対する正誤判断の理由を問われたとき、「青い封筒には入れない」「同じことを○回する」など、条件について伝えたりする

学び： 間違っている点について考え、再度取り組んだり、友だちの行動に注目し、正誤判断したりする

三観点	評価
知識及び技能	必要条件が加えられた説明書きを読んで行動するとき、後半の3問は、●回できたら△に持っているなどの条件に沿って、①プリントを○枚とる②クリップでとめる③封筒に入れるなどの一連の指示内容を指定回数だけ行動することができた。
思考力・判断力・表現力等	友だちが指示内容の一部または全部にかかる禁止条件、絶対条件、必要条件、分類+必要(禁止)条件、理由+必要条件が加えられた説明書きを全部読んで行動したり、友だちの行動に誤りがあるときは、「○回する」「キャップをかぶって」など、条件をあげて、誤りを伝えることができた。
主体的に学習に取り組む態度	友だちや教師から間違っている点を伝えられたときは、間違っている点に気づき、再度取り組むことができた。また、友だちの行動をよく見て、正誤判断をすることもできた



友だちの行動に目を向け、条件についてよく考えて「バッチリ・ちょっと待った」カードで正誤判断するための改善

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
正解のときは、バッチリカード、間違っているときは、ちょっと待ったカードを出す。間違っているときは、どこが間違っているかを伝える。	間違っているときに、どこが間違っているかを共通理解できるように、間違っている理由を言うようにした。	正誤判断の前に、見本を見て正答かどうかを確認した。	理解を深めるために、友だちの行動が説明書き通りに行えているかを観察し、正誤判断をしてから見本で正答かどうかを確認するようにした。すると、正誤判断のときも自分が行動するときと同じように考えることができ、間違っているところを伝えることができた。



読めない漢字の読み方を確認し、自分で学習を進めるための工夫

望む姿	意図と働きかけ	結果
説明書きの文の中に、読めない漢字があるときに、読めない部分を読み上げアプリを使用して説明書きの内容を読み取る。	読む必要性を損なわないように、読めない漢字だけをアプリを使って読み取ることを伝えた。	アプリを使う前は、わからない漢字は友だちに読みを聞いたり、読み取れていないまま行動して間違ったりすることがあったが、アプリを使用することで、自分で説明書きの内容を読み取って正しく行動できるようになった。



授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

次題材に向けて

今回、説明書きを読んで行動した後に、正誤判断を取り入れることで、1時間の中で、異なる条件について考える機会を多く設定することができただけでなく、友だちの行動を客観的に観察することで、説明書きと行動とを照らし合わせて学びを深めることができたと考えられる。本実践で指導したい内容を具体的にした上で実態把握や題材計画を設定したことにより、おおむね題材計画通りに進めることができたと言える。しかし、3次で様々な条件の指示内容を扱った際に間違っ姿もあったため、引き続き指導する必要があると考える。そこで、次題材では、学習してきた指示内容の一部または全部にかかる禁止条件、絶対条件、必要条件、分類+必要(禁止)条件、理由+必要条件のある説明書きに応じて行動できるように実態を適切に把握して課題を設定して学習に取り組みたい。